

中能登町観光協会だより

VOL.02

2022
第2号

- ① 雨の宮を護る重要な奉仕活動
- ② 石動山 秋のつどい
- ③ 初の試み 秋祭りで三番叟を舞う
- ④ 3年ぶりの鵜様道中
- ⑤ 基石ヶ峰 初日の出を拝む集い
- ⑥ 中能登町観光協会視察研修

中能登町の伝統を
護り続ける団体活動

SUPPORT
新しい価値を生む！

中能登町「魅力サポート事業」

鹿西高校の生徒が能登の観光プランを作成

副会長からのあいさつ



中能登町観光協会 副会長
佐近 清一
任期／令和3年5月21日から2年

観光協会の会員の皆さんには町や観光協会行事にご理解、ご協力をいただきまして有り難う御座います。

ここ2年間はコロナという菌がまん延して、大きな行事が中止になり、観光協会としても残念に思います。

早くコロナが治まってくれる事を全世界が願っております。

また、中能登町にはこれと言った大きな観光資源が少ない中、この町に眠っている観光資源をさらに掘り起こして町の活性化に役立てていければと思います。

今後の事は皆さんと一緒に話し合って、すすめていきたいと思います。宜しく願います。

1 雨の宮を護る重要な奉仕活動

▼雨の宮を護る会 ■令和3年10月9日(土)／雨の宮林道周辺

雨の宮を護る会主催で7年間、雨の宮古墳祭りを開催し、舞の道「観音舞」の披露、出土品特別展示や古墳めぐりクイズラリー、勾玉づくり体験等の催し物をして、地域の方に雨の宮古墳群の周知向上に努めてきた。令和元年は台風接近、令和2年、令和3年はコロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、雨の宮林道や長谷林道の清掃、枝払いの奉仕活動は行っている。常日頃、雨の宮を整備し、観光地としても多くの人が訪れることを願っている。



雨の宮林道の清掃活動

2 石動山秋のつどい

▼能登國石動山を護る会 ■令和3年10月10日(日)／石動山大宮坊周辺

「石動山秋のつどい」は町内外から約100人が参加した。

白山修験者による神事舞の後、白



修行者と山内を歩く

山修験者と一緒にブナ林を歩く「いするぎウォーク」を開催。また織物産業が盛んな町産の布で作った石動山僧兵をイメージした衣装も披露し、石動山の歴史や町の魅力をPRした。

山内で修行していた山伏の護符を再現し木板を墨で紙に写す手作り体験や、伊須流岐比古神社と能登部神社の宮司で獣医師でもある清水景子氏による講演会も行われた。

3 初の試み 秋祭りで三番叟を舞う

▼三番叟神事舞保存会 ■令和3年10月23日(土)／能登比咩神社

中能登町無形民俗文化財「三番叟」は、毎年、能登部下区の春祭りに能登比咩神社で行われる神事舞のひとつだが、コロナ禍により2年続けて中止となった。「三番叟」は一人の少年が終始無言で囃し方に合わせ、農事に関する所作を演じるもので、五穀豊穡を祈り、清めをなすものとされる。

今年は感染状況を鑑みて、異

例の秋祭りでの奉納を決め、9月下旬から週3回の練習を始めた。



一年の農物所作を舞う

当日は拍子木と笛の音色に合わせ、体を大きくのけぞらし、堂々と舞を披露した。今後も歴史ある郷土芸能を継承していきたい。

国重要無形民俗文化財「気多の鵜祭の習俗」

3年ぶりの鵜様道中

▼鵜様道中の宿保存会 ■令和3年12月13日(月)・14日(火)

神の化身である「鵜様」を七尾市から羽咋市の気多大社に運ぶ鵜様道中。鵜捕部が鵜籠を背負って、「ウツトリベー、ウツトリベー」と連呼しながら七尾市から中能登町、羽咋市の気多大社までの約40kmを3日間かけて歩く。

12月13日には石川県民文化振興・地域活性化事業「鵜様道中伝承活動」の一環として、講演会や謡曲「鵜様」を上演した。日が沈んだ頃、鵜様を担いだ鵜捕部が良川の鵜家

に到着し、地域住民が鵜様に手を合わせた。14日には能登部を通り、金丸の梶井家で清祓いをし、夕方には気多大社に到着した。

この期間、鵜様道中の宿の園庭には、能登の海へ大国主命おおくにぬしのみことが到着された故事を再現したイルミネーションや、道の駅織姫の里なかのとは写真展示会を開催し、平安時代から今に続く伝統文化を町民や若い世代に伝承した。



鵜様道中の宿、イルミネーション「ゆらぎ」大国主命と鵜様

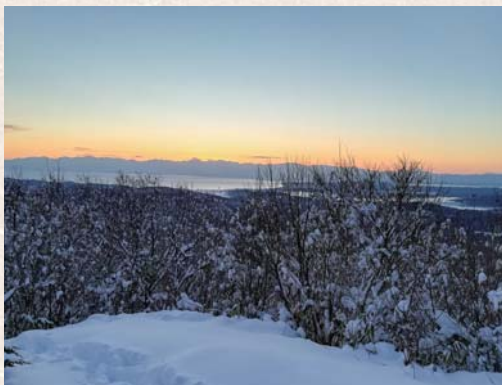
5 1年の計は元旦にあり 碁石ヶ峰 初日の出を拝む集い

▶ 碁石ヶ峰を護る会 ■ 令和4年1月1日(土)

今年こそは初日の出が見られるかと期待を胸に膨らませながら、平成10年(1998)から続く「初日の出を拝む集い」は毎年元旦に行われ、ご来光を拝みに碁石ヶ峰山頂に人々が集まる。

山頂に登るルートは2カ所あり、中能登町(高畠)側から徒歩10分、羽咋市側から徒歩5分ほどで、標高461メートルの山頂にたどりつく。立山連峰や能登島など360度のパノラマが満喫でき、北陸の冬空は曇天が多く、なかなか「初日の出」を見ることができないが、それでも毎年、元旦早朝に碁石ヶ峰山頂を訪れる人が後を絶たない。

碁石ヶ峰を護る会では例年、温かい紅白雑煮を振るまう。来年こそは、天候に恵まれて初日の出が見られると信じて、山頂への登山道草刈りの奉仕活動を続けていく。



6 中能登町観光協会 視察研修 白山市観光連盟の事業取組みを学ぶ

■ 令和3年11月16日(火)／白山市

会員29名が参加した視察研修では(一社)白山市観光連盟の現状や事業取組みを学んだ。平成25年に松任、美川、鶴来、白山が合併し発足した(一社)白山市観光連盟は物販、旅館業、飲食業等294団体が属している。観光ガイド事業部会や新たにできた観光未来プロジェクト部会、新ご当地食品開発部会を取りまとめサポートしている。どぶろく特区でもある白山市の取組みは今後、中能登と連携できる可能性を感じた。

その後、観光案内所ふる里つぎ「横町うらら館」を見学し、杉や櫟、楓などの樹木に覆われた約250mの表参道を通り、荘厳な雰囲気^{しらやまひめじんじや}がただよう白山比咩神社で参拝し、九谷焼資料館の見学や道の駅めぐみにも訪れた。



魅力が
町を変える

鹿西高校の生徒が能登の観光プランを作成



若い目線のプランを発表

鹿西高校「総合的な探究の時間」 のと観光プラン発表／鹿西高校

鹿西高校の1年生が総合的な探究の授業で、「のと観光プランをつくらう」をテーマにグループで地域を訪れ、生徒目線の26種類の観光プランが完成した。発表会はコロナ禍により、オンラインで行われた。プラン内容では、千里浜のゴミを再利用した海洋プラスチックアート体験や中能登町の発酵食文化が楽しめるプラン、農業体験を盛り込んだプラン等、どのプランも参加したいと思わせる内容で、旅行商品化の可能性を感じた。

電気自動車の 実証実験

令和3年11月と令和4年1月に道の駅織姫の里なかのとで、「既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業」として、マイクロEV配備による2次交通の充実を図り、「新しい形の観光」として「観光地のバージョンアップ」を図るため、(一社)ななお・なかのとDMOと連携してマイクロEV(超小型電気自動車コムス)を無償貸出し実証実験を行った。利用者からは運転しやすく、思ったよりスピードも出て快適だと、今後の域内の周遊性や満足度向上の可能性を感じた。



超小型電気自動車コムス

編集後記

3年ぶりに鵜様が捕獲できたと新聞の記事を読んだ時に今年こそは鵜様道中を見たいと思い、当日、鵜様道中の宿を訪れました。日が暮れて暗い道の中、鵜籠を背負った鵜捕部が入っていく姿を見る事ができました。朝には鵜様が元氣よくフナを食べる姿や鵜様をじっくり見ると青い輝くきれいな目に感動し、とても幸せな気分になりました。今後も続いてほしい伝承のひとつだと思います。(吉野)

中能登町観光協会 Tel.0767-76-8000 (道の駅 織姫の里なかのと)

〒929-1721 石川県鹿島郡中能登町井田ぬ部10番地1
ホームページ <https://nakanotokanko.com/>
メール nakanotokankou2005@gmail.com

[中能登町観光協会ホームページ]
右のQRコードを読み取ってください

中能登町観光協会

検索

